

# ロシア留学

情報文化学科 2年 今井勇希

私は2015年8月27日から、12月23日までのおよそ4か月間、ロシアのウラジオストクにあるウラジオストク国立経済サービス大学へ留学してきました。私は海外へ行くのがこの留学が初めてのことで、正直楽しみというよりは不安のほうが大きかったです。それに、私は料理や洗濯もほとんどしたことがなく、本当にこの留学は大丈夫だろうか？とっていました。しかし、ロシア語コースの留学生は18人と例年と比べてとても多く、なにかあればお互いが助け合っとうまくやっていました。

## <寮での生活>

寮は同じ大学の日本人同士の二人部屋でした。部屋には、シャワーがついているのですが、はじめの一か月はお湯が出ず、少し歩いたところにあるスポーツジムのシャワーを借りていました。しかし、スポーツジムが開いていなかったり、シャワーを借りられなかったりしたときには、部屋にあるポットでお湯を沸かして水と混ぜてぬるま湯にして浴びたりしていました。水のまま浴びている人もいました。

部屋によっては、寒い部屋があったり、シャワーからお湯が出るようになってからもたまにお湯が出なかったりする部屋もありました。さらに、私の部屋にはほとんどいなかったのですが、ゴキブリが多く現れる部屋もあり、その部屋は毎日ゴキブリと戦っていて大変そうでした。

食事に関しては、朝はシリアルを食べ、昼は学校の近くの屋台で買うか、食堂で食べるか、カップラーメン、夜は自炊するという感じで過ごしました。学校の近くの屋台では初めてのころ、店員さんの対応がすごく冷たいなと感じていました。しかし、毎日毎日その屋台でご飯を買っていたら、店員さんもこちらの顔を覚えてくれて「привет!!」と声をかけてくれるようになりました。これは親しい友人同士があいさつのときに用いる言葉です。この言葉を言われて、とてもうれしかったのを覚えています。自炊する際には、その階に住んでいる人たち全員が共同で使うキッチンを利用していました。そのためキッチンは様々な人が行き来し、日本人以外にも使うため、そこでロシア語を使ったコミュニケーションをとったりもしました。キッチンのコンロは11個あり、熱が強かったりものすごく弱かったりする場所があるため、外国人の人が熱の弱いコンロを使っていて「こっちのほうが、熱が強いよ」と教えたりもしました。日本人留学生は今年18人もいたので、一斉にキッチンで自炊ができず、少し時間をずらしたりしていました。

洗濯ははじめのころはずっと手洗いで過ごしていました。少ししてから、洗濯機が使えることを知り、使っていたのですが、1回使うのに50ルーブルかかるので、洗濯物を溜めてから洗濯機を使うようにしました。

## <授業>

ロシアの授業は少人数のクラスに編成され、日本人以外の外国人数人と授業を行いました。時間割はクラスごとに違いましたが日本の大学と同じく、一コマ90分の授業が水曜以外毎日3コマありました。授業はすべてロシア語で行われました。初めのころは、先生の言っていることがほとんど理解することができず、はじめの1か月は授業中、常に辞書で単語を調べ続けていました。日本でロシア語を少しやっていたにもかかわらず、こんなにも言葉が理解できないものなのかととてもショックを受けました。しかし、毎日ロシア語に触れていることで、徐々に慣れていき気づけば先生の喋っている言葉が自然に理解できるくらいまで成長することができました。

ロシアの先生方はとても優しい人ばかりでした。少人数のクラスであったため、先生との壁はほとんど感じられず、とても居心地が良かったです。とても陽気で面白い先生が多かったので、授業中は笑いが絶えず、私は毎日の授業がとても楽しみになっていました。私は基本的に勉強が好きではなかったのですが、そんな私が授業を楽しみになるというのはとても驚きました。先生には様々な面でお世話になりました。ロシアに来て初めの1か月くらいはロシア語をほとんど理解できていなかった私を、ここまで成長させてくれて本当に感謝しています。

私のクラスは日本人のほかには韓国人・中国人・ベトナム人・インドネシア人がいました。日本では、自発的に発言する人はあまりいないように思えます。私も授業中はとても静かで、先生に質問されれば答えるくらいしかしていませんでした。しかし、彼らは積極的に発言したりしていて、私も彼らのその姿を見てもっと積極的に授業に参加しようと思えました。彼らとのコミュニケーションはほとんどロシア語で行いました。彼らは私よりもロシア語のスキルがとても高く、授業でわからないときにはよく助けてもらいました。彼らと会話をしているうえで、私が言葉の意味を理解できていないときにはゆっくり言い直してくれたり、簡単な単語に言い換えてくれたりしました。彼らともっと話したいと思い、ロシア語を学ぶことに対しての意欲がさらに出てきました。この日本人だけではなく、ほかの国の人たちと合同のクラス編成による授業は私にとって様々な面で大きなプラスになったと感じました。彼らのおかげで授業がとても楽しくなったのだと思います。



### <ロシアでの生活>

ウラジオストクに初めてついたときに感じたことは、日本とはまったく違う世界にきてしまったんだと感じました。まわりにはビルが多く立ち並んでおり、車の交通量もとても多く、日本ではあまり見られないような光景でした。

私は夕食を自炊していたのですが、その食材を買うために近くのスーパーを利用していました。ここでも日本との違いがいくつかありました。野菜や果物、お惣菜などはすべて量り売りで、お店の人に「これ量ってください」とお願いして値段のバーコードを受け取ります。私が一番日本との違いにショックを受けたことは店員さんの対応でした。日本ではみんなが笑顔で対応してくれます。しかし、ロシアではみんな不愛想で私が細かいお金を持っておらず、大きなお金を出した時には「もっと細かい金はないの?」「あと2ルーブル!」などと怒り気味に言われて怖かったです。その日以来、大きなお金を出すことが恐怖になりました。

私は週末になるとよくバスに乗って中心街に買い物に行きました。中心街では服や食材、おみやげなどを買っていました。様々なお店が立ち並んでおり、日本でも見たことがあるようなブランドも多くありました。週末には市場もやっていたのでそこでおいしいお菓子を買ったり、野菜や果物を安く買ったりできました。ロシアのご飯屋さんもとてもおいしいお店ばかりで、非常に満足のいくものでした。

私は街のおもちゃ屋さんでサッカーボールを購入し、たまに日本人留学生同士でサッカーをしていました。すると、通りすがりの外国人が参加したりして、スポーツに国境はないんだなと思いました。寒くなってきてからはほとんどサッカーをしなくなったので、彼らとも会うことがなくなってしまっても残念でした。彼らとサッカーしたことは最高の思い出です。

私のクラスのインドネシア人の友人が家に招待してくれたときがありました。そのときは日本人と中国人、韓国人、フィリピン人など30人近くが集まって遊びました。料理を振舞ってくれたり、一緒にサッカーしたりしてさらに仲を深めました。彼はキリスト教だったので、近くの教会へ行っていろいろなところを見せてくれました。大変貴重な体験ができて嬉しかったです。



<最後に>

私はこのロシア留学を経験して、いろいろなものへのありがたみが改めて実感できました。日本では当たり前だと思っていたことがロシアでは当たり前ではない、このようなことにぶつかるたびに今まで自分があって当たり前だと思っていたことに対して、すごくありがたみを感じました。やはり、このありがたみというものは日本にいただけでは絶対に気づけなかったことだと思うし、なによりこの留学を経てそのことに気づき、日本という国の素晴らしさを実感しました。

私はこの留学で、多くの友人ができました。彼らは私にとって本当にかげがえのない存在です。彼らと出逢えて本当に良かったと心から思えます。彼らなしでは私の留学生活はこれほど充実したものではなかったでしょう。本当に感謝しています。

この留学で得たものはとても大きく、それを今後活かしていけるよう努力をしていきたいです。

